

## 改訂第3版の序

本書の前身であります2007年の初版と2011年の改訂版は、ともに多くの方々にお使いいただくことができました。初版の序にも書かせていただいたように、ステロイドは重症症例や難治性病態などランダム化比較試験が行われにくい領域に使われることも多く、その選び方や使い方がそれぞれの国や施設での経験の積み重ねのうえに成り立ってきた面があります。実際には、それぞれの施設で確立された個別の投与のプロトコールは、治療上の整合性はおおむねとれていることは多いのですが、かなり多様であり、そのような状況に甘んじてよいわけではありません。より適切な薬剤の選択と投与方法を指向する努力とともに、治療の統一性と再現性の確保をめざすことが、その次の治療法のステップアップにつながる基盤となると考えられます。さらに、研修のローテートに際し、投与方法の多様性は若手臨床医自身が戸惑うだけでなく、指導医とのコミュニケーションのギャップにもつながっているとの指摘もあります。したがって少しでも最新のエビデンスや人智を結集して執筆されたガイドラインの情報をとり入れることで、より均てん化された薬剤の選択と投与方法の普及が望まれていると考えます。このようなコンセプトをもとに、本改訂第3版が発行となりました。

本改訂にあたっては、内容を全面的に見直し、新薬や適応拡大薬の追加などをはじめとして、感染症領域、自己炎症性症候群、Bell麻痺、ニューモシスチス肺炎などの疾患のほか、妊婦・授乳婦への投与や相互作用など新規項目の追加も行われました。旧版にも増し、より多くの方々の臨床に役立つことを期待致します。

2018年2月

山本一彦